

地元を拠点に活動するアーティストの半生を描いた映画の制作やPRを支援

愛媛県 日光商事

「ドキュメンタリー映画の企画・特別協賛」事業



代表取締役社長
川井祐介さん

選考理由

地元新居浜で、苦しみながらも愛に溢れた子育てをする母親と自閉症児の日々を綴った映画を支援、上映は20都道府県に広がり深い感動を与えている。映画製作はテレビ会社だが、自主製作ルートのため配給に苦労していることを知り宣伝普及を助力、また新居浜の小学生全員に鑑賞券を配布するなど努力を重ねた。映画鑑賞を通じて子どもたちには苦しい中でも「がんばること」の大切さや、親世代には子育てのヒントや学びもあり、文化支援として優れた効果をあげた。

社会貢献活動審査委員会 委員 永井多恵子氏

『新居浜ひかり物語 青いライオン』の企画、資金提供、PRを精力的に担う

2024年秋の封切からミニシアターなどを中心に全国で順次公開され、話題となっているドキュメンタリー映画がある。RSK山陽放送の創立70周年を記念して制作された『新居浜ひかり物語 青いライオン』で、愛媛県新居浜市を拠点に印象的な動物の油絵や版画などを制作するアーティスト・石村嘉成さんの半生をドキュメンタリーとドラマで描いた作品である。

2歳のときに自閉症と診断された主人公の石村さんのために、母親の有希子さんは様々な療養施設をめぐり、やがてある療育者と出会う。厳しくも愛情に満ちた療養のおかげで少しずつ成果が出始めた矢先、母親は病気のために40歳という若さで帰らぬ人となってしまふ。石村さんは当時まだ小学5年生だったが、療育のバトンを受け継いだ父親の和徳さんのもとで、やがて絵画の才能が開花していく……。

2022年から山陽放送に呼びかけ、この映画の制作を提案し、企画を担当したのは、新居浜市に本社を置き、愛媛県のほか中国・四国・九州地方に21店のホールを展開する株式会社日光商事の川井祐介代表取締役社長である。さらに日光商事グループは、特別協賛として制作資金の提供も行っている。映画制作においては、新居浜市の風景や秋祭りの紹介、石村さんの半生と家族の奮闘、障がい者教育などを柱とする企画、特別協賛にとどまらず、日光商事では全国公開に先駆け、映画館と粘り強く交渉し、地元の新居浜市での先行上映の実現に漕ぎ着けたほか、新居浜市の全小学校の児童に映画の観賞券（約5,800枚）を寄贈するなどのPR活動にも取り組んだ。また、川井社長は制作発表の記者会見や先行上映となった10月18日の舞台挨拶にも出席した。愛媛県遊技業協同組合でも、この映画のPR活動を支援することを決定し、12月24日に地元紙の愛媛新聞に映画の全面広告を掲載した。



企画、資金提供等、制作を支援した映画『新居浜ひかり物語 青いライオン』のポスター



市内の小学校に通う児童全員分の映画鑑賞券を新居浜市に寄贈

都道府県組合 優秀賞 青森県遊技業協同組合

青森県遊技業協同組合
理事長 若林浩司さん

「災害救助犬支援活動」事業

青森市に拠点を置く特定非営利活動法人「北東北捜索犬チーム」は、「真に社会に役立つ捜索犬とセラピー犬を育てよう!」をモットーに、犬と人が一体となって社会の安全・安心のために貢献することを目的に活動している。

これまで熊本地震、北海道胆振東部地震、静岡県熱海市の土石流災害、山形県鶴岡市の土砂災害、能登半島地震などに出勤して、人命救助や行方不明者の捜索活動を行ってきた。

青森県遊技業協同組合は2013年から同団体の賛助会員としてその活動を支援しているが、2024年11月には、主催するチャリティゴルフコンペの収益金20万円を同法人の現場出勤服の購入資金として寄贈した。



青森県遊技業協同組合のステッカーを掲示している車両と災害救助犬

都道府県組合 優秀賞 山形県遊技業協同組合

山形県遊技業協同組合
理事長 井上静夫さん

「山形県警察『警察書道』コンクール共催」事業

山形県警察では、犯罪や交通事故などの被害防止を図ることを目的に、書道の基本となる「とめ（被害をくいとめる）」「はね（犯罪等をはねつける）」「はらい（犯人をはらいのける）」にかけ、それに関連した言葉をしたためてもらう「警察書道」コンクールを2023年から実施している。

24年は「見守る」「防犯意識」「安全横断」「速度を守る」などの7つの課題が出され、個人の部に小中学生や一般から2276点の応募があった。

このコンクールを共催する山形県遊技業協同組合では、12月1日開催の表彰式に出席し、「安全な街を作るで賞」（中学生の部）、「特別に美しい作品で賞」（一般の部）に特別賞を授与した。



共催した「警察書道」コンクール